

歴史と文化を 考えよう

'08 江東区文化財保護強調月間



深川の力持 七福神宝の入船

深川江戸資料館、芭蕉記念館、中川船番所資料館などでも多くの企画を用意しています。江戸資料館では特別展「江戸名物をささえた江東地域」、中川船番所資料館では特別企画展「江戸の武士と釣り文化」釣り指南書『何ぞの世』、芭蕉記念館では時雨忌講演会と歴史散歩など、各館のイベントも盛り沢山です。こちらにもふりつてご参加下さい。

また、11月1・2日の江東ものづくりフェアでは職人さんによる実演公開、体験教室を中心に、無形文化財保持者の後継者による「つぐもの展」、工芸品チャリティーバザールなどを行います。是非この機会に江東区の歴史や文化に触れて、みて、考えてはいかがでしょうか。

木場の木遣、深川八幡の手古舞、深川の力持、砂村囃子など、脈々と受け継がれてきた技が公開されます。

めっきり涼しくなり、秋の気配が色濃く漂うようになりましたね。屋外で活動したり、ゆつくりと思索にふけるには良い季節になりました。文化財係では今年も10月1日の公開講演会を皮切りに民俗芸能大会、旧大石家住宅の特別公開、江東ものづくりフェアなど様々なイベントを用意しています。

10月19日の区民祭りでは木場の角乗、

下町文化

NO.
243
2008.9.25

発行
江東区教育委員会
生涯学習部生涯学習課
〒135-8383
江東区東陽4-11-28
TEL(03)3647-9819
<http://www.city.koto.lg.jp/>

○08 江東区文化財保護強調月間

民俗芸能大会
旧大石家特別公開
文化財公開講演会
江東ものづくりフェア

○文化財関連イベントマップ

芭蕉記念館時雨忌講演会・歴史散歩
深川江戸資料館企画展
中川船番所資料館特別企画展 ほか

◎江東歴史紀行

土の中に眠る江東区の歴史
◆ココにも歴史があった
◆自主グループ繁盛記

10/19(日)江東区民まつり

民俗芸能大会

入場無料

【午前の部 (午前11時～12時30分)】

場所 木場公園内入口広場

木場の角乗

木場角乗保存会

江戸時代に木場の筏師(川並)は水に浮かべた材木を、鳶口ひとつで乗りこなし、筏を組んでいました。角乗はその仕事の余技として生まれました。

(都指定無形民俗文化財)

【午後の部 (午後1時～3時50分)】

場所 木場公園内ふれあい広場

木場の木遣

木場木遣保存会

川並衆が材木を操るときに互いの息を合わせるために詠われた労働歌です。

(都指定無形民俗文化財)

木場の木遣念仏

木場木遣保存会

木遣とともに大数珠を手繰って念仏を唱える大変珍しいものです。

(区登録無形民俗文化財)

砂村囃子

砂村囃子保存会

江戸時代中期に金町の香取明神社(現葛飾区葛西神社)の神官が百姓に教えた祭囃子の流れをくむお囃子です。

(区指定無形民俗文化財)

富岡八幡の手古舞

富岡八幡の手古舞保存会

富岡八幡宮の大祭で神輿の先頭に立ち、木遣を唄いながら、男鬘に裁着袴という粋ないでたちで練り歩きます。昔は辰巳芸者が行いました。

(区登録無形民俗文化財)

深川の力持

深川力持睦会

江戸時代から倉庫地域であった佐賀辺りで、米俵や酒樽などの運搬をする人々の余技として芸能化したものです。

(都指定無形民俗文化財)

*力持終了後に「力餅」を配ります。



10/20(日)26日

旧大石家住宅特別公開

入場無料

江戸時代に建てられた区内最古の木造民家で、区指定有形文化財です。通常は土・日曜・祝日のみですが、左記期間中には平日も公開いたします。旧大石家住宅は、もとは八郎右衛門新田(東砂8)にあり、周辺は昭和30年ごろまで農村の面影を残す地域でした。特別公開期間中は、東砂や仙台堀川周辺の昭和30年ごろの写真を展示します。



場所 旧大石家住宅

(南砂5-24地先 仙台堀川公園ふれあいの森)

時間 月・金 午前10時～午後3時
土・日 午前10時～午後4時

10/1(水)文化財公開講演会

文書が語る江東区の近代

―地域の資料と後世に伝えるために―

場所 教育センター大研修室

定員 80人(先着順)

申込 電話で生涯学習課文化財係へ

江東区は江戸時代から大きくひろけた場所ですが、そこで生まれた文書はどのような形で現在に残っているのでしょうか。また、現在作成されている文書はどのような形で未来に伝えられていくのでしょうか。

東京都公文書館に永年勤められたお二人を講師にむかえ、文書資料の保存についてのお話しを交えながら、江東区の近代を語っていただきます。

講師 水野保・水口政次(江東区公文書等専門員)

時間 午後6時30分～8時30分

申込・問合せ
生涯学習課文化財係

☎3647-9819

*区報、ホームページでもご案内しておりますのでご覧下さい。

HPアドレス

<http://www.city.koto.lg.jp/seikatsu/shogai-gakushu/>

11/1・2(土・日)

江東ものづくりフェア

入場無料

伝統技術によるものづくりに関して、さまざまなイベントを行います。江東区に伝わる伝統文化に触れるまたとない機会です。たくさんの方々のご来場をお待ちしています。

会場 森下文化センター(森下3-12-17)
時間 午前9時～午後5時

●第27回 伝統工芸展

区の無形文化財(工芸技術)保持者の方々の作品を一堂に展示します。期間中、職人さんの技を実際に見学できる実演公開が行われます。また、職人さんの指導を受けながら、ものづくりの体験もできます。実演・体験の日程は下記の表をご参照ください。

【体験申込み】当日、会場2階受付にてお申し込みください。受付開始時間は、午前の部は午前9時30分、午後の

部は午後1時です。なお、教材費がかかりますのでご注意ください。

●第3回 伝統を継ぐもの展

無形文化財保持者の指導を受けた職人さんたちによる作品を展示します。受け継がれていく確かな技をご覧ください。

●工芸品チャリティバザール

期間中、会場1階にて、江東区伝統工芸保存会主催による伝統工芸品の販売が行われます。

江戸木彫刻
渡辺 美寿雄



さらさ染め
佐野 利夫・佐野 勇二



刀剣研磨
白木 良彦



江戸木彫刻
岸本 忠雄



江戸切子
小林 英夫



襖櫓・椽
鈴木 延坦

伝統工芸技術の実演・体験日程

日 時	10:00～12:00	13:30～15:30
11月1日 (土)	刀剣研磨 白木良彦 ※実演 相撲呼び出し裁着袴 富永 皓 ※実演 「裁着袴をはいてみよう」(無料) ※作品を持ち帰ることはできません。	石工 新川 昇 ※実演 相撲呼び出し裁着袴 富永 皓 ※実演 「裁着袴をはいてみよう」(無料) ※作品を持ち帰ることはできません。
	表具 岩崎清二 自分の作品に裏打ちをしてみよう ※色紙大程度の作品(紙・布)を持参のこと。 定員6名 費用 1,500円	建具組子 木全章二 組子組んでみよう ※①コースター(9cm四方)、または ②和風写真立て(幅22cm)ができます。 定員8名 費用① 500円 ② 2,500円
	染色補正 丸田常廣 ※実演 ※着物のしみ抜きのご相談受け付けます。	手描友禅 和田宣明 ※実演
	無地染 近藤良治 ※実演	江戸木彫刻 岸本忠雄 彫刻刀を使ってみよう ※①桐の文箱(縦20cm)、または ②姫小松の板に文字を彫ります。 定員8名 費用① 2,200円 ② 1,500円
	襖櫓・椽 鈴木延坦 ※実演	庖丁製作 古賀庖丁店 ※実演
11月2日 (日)	江戸切子 小林英夫 切子のカットをしてみよう ※生地(直径約16cmの皿) 定員10名 費用 1,500円	江戸切子 小林英夫 切子のカットをしてみよう ※生地(直径約16cmの皿) 定員10名 費用 1,500円
	さらさ染め 佐野利夫・佐野勇二 ※実演	さらさ染め 佐野利夫・佐野勇二 擦染(刷り染め)をしてみよう ※図柄(東海道五十三次「日本橋」) 定員5名 費用 2,500円
	すだれ製作 豊田 勇 すだれを編んでみよう ※色紙掛けができます。 定員4名 費用 500円	江戸指物 山田一彦 ※実演 「指物を組み立ててみよう」(無料) ※作品を持ち帰ることはできません
	縫紋 天野一政 ※実演 建具組子 木全章二 組子組んでみよう ※①コースター(9cm四方)、または ②和風写真立て(幅22cm)ができます。 定員8名 費用 ①500円 ② 2,500円	刀剣研磨 白木良彦 ※実演 江戸切子 須田富雄 切子のカットをしてみよう ※生地(直径約8cmの丸文鎮) 定員4名(2名ごと1時間交代) 費用 700円
	江戸指物 山田一彦 指物道具を使ってみよう ※はしができます(はし置き付き)。 定員8名 費用 1,200円	象牙細工 前田賢次 ※実演
	石工 新川 昇 ※実演	建具 友國三郎 ケヒキ・カンナを使ってみよう ※筆箱(縦約25cm)ができます。 定員8名 費用 1,500円

※ は体験(職人教室)です。申し込みは当日会場2階受付にて受け付けいたします。

※内容は変更になる場合もありますので、ご了承ください。



交通

- 地下鉄新宿線・大江戸線「森下駅」下車A6出口より徒歩10分
- 地下鉄半蔵門線・大江戸線「清澄白河駅」下車A1・B2出口より徒歩12分
- 都バス門33[亀戸駅～豊海水産埠頭][高橋]下車徒歩5分[業10][業平橋駅～新橋][森下5丁目]下車徒歩5分

08 文化財関連イベントマップ

10月1日

公開講演会（教育センター）
午後6時30分～8時30分
「文書が語る江東区の近代」

10月19日

民俗芸能大会（都立木場公園）
午前11時～午後3時50分
木場の角乗、木場の木遣、砂村囃子
富岡八幡の手古舞、深川の力持

10月20日
～26日

旧大石家住宅特別公開
（仙台東堀川公園）
月～金 午前10時～午後3時
土・日 午前10時～午後4時

11月1・2日

江東ものづくりフェア（森下文化センター）
午前9時～午後5時
第27回伝統工芸展、第3回伝統を継ぐもの展
工芸品チャリティーバザール

詳しくは3頁

詳しくは2頁



中川船番所資料館

平成20年度特別企画展

江戸の武士と釣り文化

「何羨録」の世界

今回の特別企画展では、江戸時代中期に書かれた日本最古の釣り指南書『何羨録』を中心に、江戸の釣り名所や道具、江戸時代の武士・庶民の釣りのようすなどを取り上げます。特に、2階釣具展示室で展示している江戸和竿誕生の歴史として、江戸時代の釣り文化を歴史的な面から紹介します。

期間 10/29（水）～11/24（月・祝）
午前9時30分～午後5時
（入館は4時30分まで）

休館日 最終日を除く月曜

会場 3階常設・企画展示室
1階エントランスロビー

料金 大人200円、小中学生50円
問合 03-3636-9091

※なお、10/28（火）は、特別企画
展設営のため臨時休館します。



釣竿の注文書



『江戸名所図会』「中川鱒釣」

登庭園

日時 午後1時～5時
講演 江戸を語る

東京文化財ウィーク2008 特別企画事業
「江戸を体感する ～江戸町人の暮らしと遊び～」

〒103-8001 新宿区西新宿2
きにて左記まで。

芭蕉記念館

時雨忌(芭蕉忌)歴史散歩・講演会

時雨忌(芭蕉の命日)にちなみ、文化財ガイド員の解説による芭蕉ゆかりの地を訪ねる歴史散歩と講演会を開催します。

【歴史散歩】

日時 10/12(日)

午前9時30分～11時30分
(集合9時15分)

*小雨決行

定員 50人(多数の場合抽選)

費用 400円

申込 9月30日(火) 必着

申込方法

往復はがきに①郵便番号・住所②氏名③年齢④電話番号を記入し、〒135-0006 常盤1-6-3 芭蕉記念館へ

【講演会】

日時 10/12(日)

午後2時～3時30分
もうひとつの「奥の細道」

定員 80人(先着順)

費用 無料

講師 金森敦子(作家)

申込 電話または窓口へ

場所・問合せ 03-3631-1448

江東図書館

秋の特別展示

『江東区報』いまむかし ～区報にみる「まなび」の歴史～

現在、月3回発行されている『江東区報』は、昭和22年12月25日に第1号が発行されて以来、1580号を数えます。本展示では区政における「まなび」の歴史を紹介します。

日時 10/4(土)～12/27(土) *休館日を除く

場所 図書館3階展示コーナー



深川江戸資料館

江戸名物をささえた江東地域

平成20年度企画展

江戸時代、全国各地の産物が、名物・名産として注目されるようになりました。江東地域の名物といえば、江戸前の魚介類や砂村茄子、亀戸大根といった野菜、菓子では船橋屋織江の練り羊羹が有名でした。これらの名物は、錦絵、俳句集、番附、双六、地誌のなかで取り上げられ、名物情報として人々の間に広まってきました。本展では、こうした当時の資料を展示し、江東地域の名物について紹介します。また、これらの名物の中でも魚介類や農作物については、どのように収穫・生産されていたのか、江東地域の産業面にもスポットをあてます。

この他、江戸での名物には、全国各地からの産物がありました。江東地域の名物、そして江戸で名物になった各地の産物がどのように流通し、新たな文化



『菓子話船橋』(江東区教育委員会蔵) 佐賀町にあった船橋屋織江の店頭の様子。練り羊羹が有名だった。

を育んだのかに迫ります。
期間 11/8(土)～24(祝・月)
*10日(月)は定期休館日です。
会場 レクホール
料金 大人300円、小中学生50円
問合せ 03-3630-8625

清澄庭園

江戸の町人の暮らしと智慧

河合敦(高校教諭)

日時 10/26(日) 午後1時～2時30分

定員 120名

公演 江戸を聞く(落語)

出演 柳亭燕路、柳亭こみち他2名

場所 清澄庭園内大正記念館

日時 10/26(日) 午後3時30分～5時

定員 120名

申込方法 講演・公演ごとに住所・氏名・電話番号を明記の上、往復はが

問合せ 03-5320-6862

※講演・公演料は無料ですが、庭園入園料(一般150円、65歳以上70円)が必要になります。また、応募者多数の場合は抽選となります。



清澄庭園

土の中に眠る江東区の歴史

(1) 江東区の地勢

江東区は武蔵野台地と下総台地にはさまれた東京低地の南端にあたり、その昔は海の底であったというイメージがあります。しかし、むしろその期間には短いもので、数万年続いた旧石器時代において東京低地は陸地でした。1万年ほど前に寒冷な「氷期」が終わり、温暖な「間氷期」に移り変わると、海面は徐々に上昇していきます（海進）。今から5～6千年前の縄文時代前期頃には海進はピークに達し、海面は現在より3mほど高くなり、海岸線は関東平野の奥深くまで入り込んだといわれます。いわゆる「縄文海進」というものです。その後、海面は再び低下し（海退）、それとともに利根川や荒川などから流入する堆積物によってゆるやかに海が埋まっています。

陸地化していたと考えられています。天正18年（1590）の徳川家康の江戸入府後は東京湾の干拓や埋め立てがすすめられます。17世紀前半に現在の森下あたりが開発され、つづいて、佐賀・永代といった隅田川東岸が開拓されました。さらに、明暦3年（1657）におきた振袖火事と呼ばれる江戸の大火を契機とした市中の拡大政策により、陸地の拡張は加速しました。江戸時代の終わりには現在の越中島・牡丹・木場・東陽・南砂まで埋め立てられました。このような過程から、江東区に遺存する埋蔵文化財（遺跡）のほとんどは中世から江戸時代に限定されます。

(2) 江東区の遺跡

区内で登録されている遺跡は現在13を数えます【図1】。これらはすべて江戸時代の遺跡であり、中世の遺跡は現在確認されていません。しかし、江戸時代以前に創建された寺社などの存在や、明治40年（1907）入神明宮（亀戸3-41）から平安時代末期～鎌倉時代の土鍾（魚網につける土製の錘）が発見されたこと、また本区の東

西を流れる小名木川は天正18年（1590）頃に開削された運河と伝えられていることなどから亀戸地域のほか新大橋・常盤・森下・猿江・住吉・毛利・大島の各地域からも中世の遺跡が発見される可能性が指摘されています。

本区の遺跡のほとんどは地下鉄工事や道路工事、住宅建築などの開発に伴い発見されたものです。その中で、江東区の特徴をよく表す遺跡として、遺跡番号4の「洲崎波除石垣跡」および遺跡番号8の「中川船番所遺跡」にて発掘調査が実施されています。

洲崎波除石垣跡【図1-4】

江戸時代の海岸に造られた石垣による防波堤で、海に面した江東区ならではの遺跡といえます。江戸時代の切絵図や錦絵から当時は洲崎神社（木場6-13-13）から西へ向かって石垣が延びていたことが想定されていました。が、その実態は不明でした。調査範囲は南北約6m、東西4mという限られた区域ではありましたが、昭和59年（1984）に発掘調査が行われまし

遺跡番号	名称	所在地	時代	種別
1		清澄 2-6 地先	近世	大名屋敷
2		越中島 1-3-27	近世	町屋
3		永代 2-36	近世	寺社
4	洲崎波除石垣跡	木場 1-5-1	近世	護岸施設
5	八幡堀跡	富岡 2-6	近世	堀
6		越中島 2-1-2	近世	町屋
7		森下 2-17-1 地先	近世	町屋
8	中川船番所遺跡	大島 9-1	近世	幕府施設
9		白河 1-3 地先	近世	寺社
10		白河 3-12	近世	町屋
11		白河 3-12	近世	武家屋敷
12		北砂 2-15	近世	大名屋敷
13	白河二丁目遺跡	白河 2-9	近世	町屋



豊川



図1 江東区遺跡分布図



写真1 波除石垣

た。地表下約3mから石垣の上面が検出され、さらに掘り進んで高さ約2.4m、5段に積まれた石垣が発見されました【写真1】。調査範囲の制約からその全容を解明することができなかったため、延長部での今後のさらなる調査が望まれます。

中川船番所遺跡【図1—8】

中川船番所は江戸市中に輸送される物資および船舶や江戸を出る人々の監視を目的として、小名木川の中川口北岸に設置された関所です。寛文元年（1661）に成立した同番所は、小名木川が江戸に通ずる交通上の要衝であったことから、非常に重要な役割を担い、明治2年（1869）まで存続していました。『江戸名所図会』の挿絵【図2】によれば、木柵がめぐらされた番所には10本の槍が中川方向にかげられ、また小名木川縁には番小屋を見て取ることができます。

平成7年（1995）1月から4月まで発掘調査が行われ、【図3】に示す報告書も刊行されました。調査の結果、



図2『江戸名所図会』中川口



図3『中川船番所遺跡調査報告』1995

同番所の設置された17世紀後半以降の遺物が多量に発見され、また江戸時代から明治時代にかけての建物跡が確認されるなど、本地区の土地利用状況の実態を垣間見ることができました。現在、同番所跡は区の指定史跡に指定され、その調査成果の一部は中川船番所資料館（大島9—1—15）に展示されています。

（3）平成19年度の調査

平成19年度、区内において遺跡の有無を確認するための試掘または立会調査を4件実施しました。そのうち、遺構および遺物を検出した3地点についてその概略を記します。

白河2—9地点【図1—13】

本調査地点は深川江戸資料館から北東に150mほど進んだ所に位置し、平成19年6月15日から19日にかけて立会調査を実施しました。ここは江戸時代、海辺大工町という町にあたります。ここから江戸時代後期から末期の遺跡が発見されました。生活廃水を流したと思われる木製の樋、大量の蛸殻が出土した穴、埋められた桶などが、現在の地面から2・1〜2・6mの深さから確認されました。建物跡は確認することはできませんでしたが、いくつかの遺構の存在により、居住空間が展開していたことは間違いないと考えています。

遺物は19世紀前半代のものを中心に、特に徳利が多く見られました。今後行われるであろう周辺の調査によって、この地域一帯の町屋のあり方が把握されることに期待したいと思います（『下町文化』239号参照）。

南砂2—36地点【図1—A】

本調査地点は区立南砂緑道公園の東端やや南に位置し、越中島貨物線および明治通りにはさまれた地点にあたります。ここは江戸時代に出雲松江藩松平出羽守の抱屋敷のあった所で、平成19年6月13日から9月15日にかけて立会調査を実施しました。江戸時代に属する遺構として挙げられるものは、現地表下2・7mで検出した小ごみ穴2基のみです。18世紀中頃から幕末期の遺物が多量に廃棄されていました。それ以外の場所からは江戸時代後期の遺物が若干量出土するものの、屋敷に関するような遺構は確認できませんでした。

佐賀2—9地点【図1—B】

都立清澄公園から南東へ100mほどの地点で、平成19年8月9日から9月28日まで、試掘および立会調査を実施しました。本調査地点は江戸時代には西永代町、富田町といった町屋地域に比定されています。現地地表下約2mにおいて、100mほどの狭い範囲か



写真2 井戸

ら計4基もの井戸が発見されました、狭い範囲で18世紀中葉から幕末にかけて繰り返し井戸が掘られた様子を見て取ることができました。これらの井戸のうち3基は底を抜いた桶を逆さにして積み重ねていく方法で構築されており【写真2】、最大のもので直径約1m、高さ約1・4mの桶が使用されていました。これまで周辺の調査が行われていないこともあり、遺跡の性格・全容については不明としなければなりません。この地域の土地利用のあり方を考えていく上で、興味深い資料を得ることができました。

（4）おわりに

江東区は震災・戦災で数多くの歴史的遺産を失っていることもあり、埋蔵文化財は区の歴史を考える上で貴重な資料となります。これまでの成果から区内には多くの遺跡が破壊を免れ、土の中に眠っていることが明らかになりつつあります。しかし、調査例はいまだに少なく、今後行う調査によって江東区の歴史を徐々に解明していきたいと思っています。

（文化財専門員 諸星 真澄）

ココにも歴史があった

昭和3年(1928)、「木屋源紙店 喫茶部」というすこぶるモダンな喫茶店が門前仲町にできました。当時の江東地区の地域新聞『櫻東新聞』の「喫茶店めぐり」というコーナーでその盛況ぶりが次のように紹介されています。

辰巳の兄い連も「俺等だつてレモンスカッシュ位の味は知つてるんだとばかり、日に三度は来ないと気がすまない」となんて云うのがあるし、毎日五六人車で自動車で乗りつける自動車屋さんもあるそうだ

また、「シヨートケーキ」「サンドキツチ」「カクテル」「ストローベリーサンデー」「フレンチトースト」など、当時では目新しいメニューを紹介しています。ただ、このあたりは蚊が多く、営業中の蚊の対策を思案するという苦労話も掲載されています。

木屋源は明治中期、深川福住町で開業した紙問屋で、喫茶部を開業した鹿取幸五郎氏のご子息幸一氏のお話では、店名は「窓」といい、金のスプーンを使うなど、食器類や内装にもこだわったお店だったとのこと。幸五郎氏は飛行機に乗ったり、サイドカーで軽井沢へ行くなど当時の先端を行く人だったそうです。ただ、残念なこと



『櫻東新聞』昭和3年7月28日広告

に、幸一氏が物心つく頃に幸五郎氏が病気で亡くなったため、喫茶部のことあまり覚えていないそうです。

それにしても、なぜ紙問屋が喫茶店を始めたのでしょうか。新聞の記事には「何かと云ふと直ぐ『深川か』と馬鹿にされるのに歯軋りして、悔しがつてる連中の一人、木屋源紙店の幸五郎君、銀座なんぞに負けるもんかと、お母さんを説き付けて、とうとう出来上がった」と記されています。

進取の気風に富み、深川に誇りを持つていた幸五郎氏が、銀座に対抗して、関東大震災からわずか5年程の間に復興を遂げつつあった深川の地に、モダン味溢れる喫茶部を開業したようです。木屋源紙店喫茶部は、昭和初期の深川において、モダンイズムという息吹が吹き込んだ新たな時流の一つの証左ということができるといえます。

(文化財係 松村浩士)

自主グループ繁盛記

江東区の歴史と文化を継承する会

今回紹介するのは、平成14年から活動を開始し、今年で7年目を迎える「江東区の歴史と文化を継承する会」です。6月20日に行われた例会に参加しました。

当会は平成13年度に教育委員会主催の文化財保護推進員中級研修会を修了したメンバーを中心に結成されました。会員は現在18名。現役の文化財保護推進員協力員さんや、砂村囃子の会長さんも所属しています。

会の目的は、「江東区の歴史・文化を深く理解し、それを後世へ継承させるべく地域社会に貢献すること」と、「会員の教養・資質を高めるための学習活動を通じ、相互の親睦を深めるとともに、さらなる郷土愛を育むこと」です。

活動は、毎月1回の例会を中心に、年数回の見学会を行っています。例会では各自が関心を持つテーマについて発表し、議論します。結成当初は江東区に関するテーマが主でしたが、最近では、江戸



例会の様子

全体・日本史といった歴史分野から、陶磁器など文化全般にまで広がっているそうです。例えば、俳句歴40年以上の方による芭蕉研究、砂村・砂町を長年追いかけている方、寄席師、区ゆかりの人物、六地藏、運河・堀・川、長谷川平蔵、三井親和など、会員各自が個々の関心に基づいて研究を積み重ねています。会員の皆さんに共通しているのは、新しい発見を求めるといって旺盛な好奇心でしょう。陶磁器の報告会では、研究題材の陶磁器で日本酒を試飲するなど(おいしそうですね)、皆さん楽しく例会に参加されているのが印象的でした。

また、継承会のもっとも大きな特徴は、毎年『水彩抄』という会誌を出していることです。ちょっとした見学記や回想録から重厚な研究レポートまで、70〜100ページの充実した会誌です。現在、第6号まで発行され、各図書館にも配架されていますので、是非ご覧になってみてください。



『水彩抄』第6号

(文化財専門員 赤澤春彦)